オセアニア教育学会

Society of Oceanian Education Studies

第１６回大会プログラム

日　程：2012年12月8日（土）・9日（日）

会　場：玉川大学5号館

オセアニア教育学会第１６回大会実行委員会

委 員 長　　福本みちよ（玉川大学）

〒194－8611 町田市玉川学園６－１－１ 玉川大学

電話&FAX：042-739-8209（福本研究室直通）

E-mail：fukumoto@edu.tamagawa.ac.jp

大会日程

［第1日　12月8日(土)］

10：00～ 11：00	紀要編集委員会 研究推進委員会	5 号館 3 階 331 会議室 319 会議室
11：15～ 12：30	理事会	5 号館 3 階 319 会議室
12：30～	受　付	5 号館地階
13：00～ 16：00	シンポジウム Education Family－ニュージーランドのプレイセンターにみる親と地域がつくる子どもの教育 ＜シンポジスト＞ 淑徳短期大学こども学科　　佐藤　純子 プレイセンター・ピカソ　　足立　隆子	5 号館地階 Ｂ115 会議室
16：00～ 16：10	休　憩	
16：10～ 17：10	総　会	5 号館地階 Ｂ115 会議室
17：30～ 19：30	懇親会	玉川学園前駅 レストラン

［第2日　12月9日(日)］

9：00～	受付	5 号館地階
9：30～ 11：00	自由研究発表	5 号館地階 Ｂ115 会議室
11：00～ 11：10	休　憩	
11：10～ 12：30	ECR（Early Career Researchers）プロジェクト ラウンドテーブル	5 号館地階 Ｂ115 会議室
12：30～ 13：15	昼食	5 号館地階 Ｂ115 会議室
13：15～ 15：30	『オーストラリア・ニュージーランドの教育』図書企画プロジェクト 研究発表	5 号館地階 Ｂ115 会議室

開催要領

1. 受付

大学５号館の地下１階ロビーに受付を設けます。12 月 8 日（土）は 12 時 30 分、12 月 9 日（日）は 9 時から受付を行います。

2. 大会参加費

◆ 大会参加費は、大会参加費は 2000 円です。懇親会費は 5000 円（学生会員は 4000 円）です。

◆ 準備の都合上、大会に参加を希望される方は、

①氏名・ご所属

②懇親会の出欠（A 懇親会出席、B 懇親会欠席、 いずれかを選択）

③お弁当の注文（A 日曜日のみ、B 土曜日のみ、C 両日、 いずれかを選択）

につきまして、大会実行委員長宛に 11 月 23 日（金）までにご連絡ください。

＜メールの場合＞ fukumoto@edu.tamagawa.ac.jp

＜ファックスの場合＞ 042－739－8209（Tel＆Fax）

3. 自由研究発表

◆ 発表時間：発表 20 分、質疑応答 10 分（計 30 分）です。

◆ 発表資料：

- 発表者は、発表用資料を 40 部程度ご用意ください（会場でのコピーはできません）。
- 大会準備委員会に郵送される場合は、あらかじめその旨をご連絡いただいた上で、12 月 4 日（火）必着でお願いいたします。

◆ PowerPoint をお使いになる場合：

- プロジェクターならびに PC を配置いたします。
- 当日はデータファイルのみ「USB メモリ」に入れてご持参ください。ただし、PowerPoint 2007／2010 で作成されたデータは、念のため PowerPoint97－2003(.ppt)の形式で保存したデータもご持参くださるようお願いいたします。

◆ 発表を取りやめる場合：

万が一、やむを得ない理由により発表を取りやめる場合は、速やかに大会実行委員会までご連絡ください。なお、発表を取りやめになった場合でも次の発表を繰り上げることはいたしません。

8. 昼食

両日ともお弁当の予約を受け付けます（学食は休業となります）。

＜会場へのアクセス＞

1. 会場までの交通手段について

□大会参加のための交通機関ならびに宿泊につきましては、会員各自で御手配ください。

□大学最寄りの駅は、小田急線玉川学園前駅（北口）となります。

□駐車場がございませんので、自家用車での来場はご遠慮ください。

2.　会場アクセス

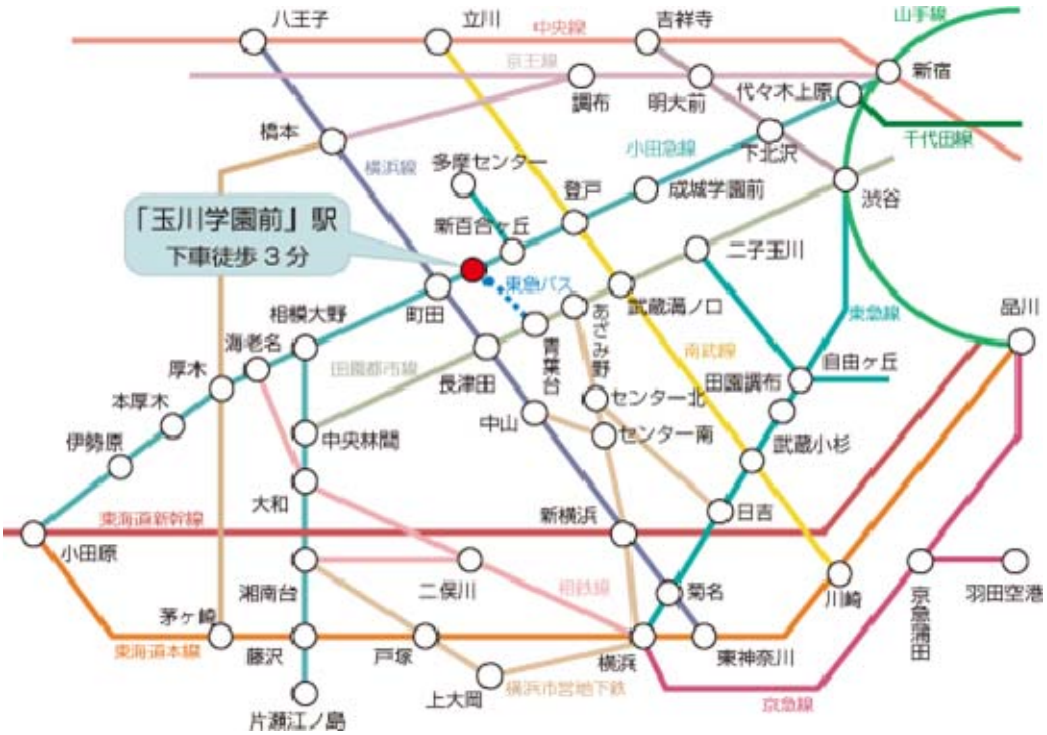
小田急小田原線「玉川学園前」駅下車 徒歩３分 。会場へは、大学正門よりお入りいただくのが便利です。

◆　新宿より〔快速急行〕に乗車し、「新百合ヶ丘」にて〔各停〕〔区間準急〕〔準急〕に乗り換え（約 30 分）

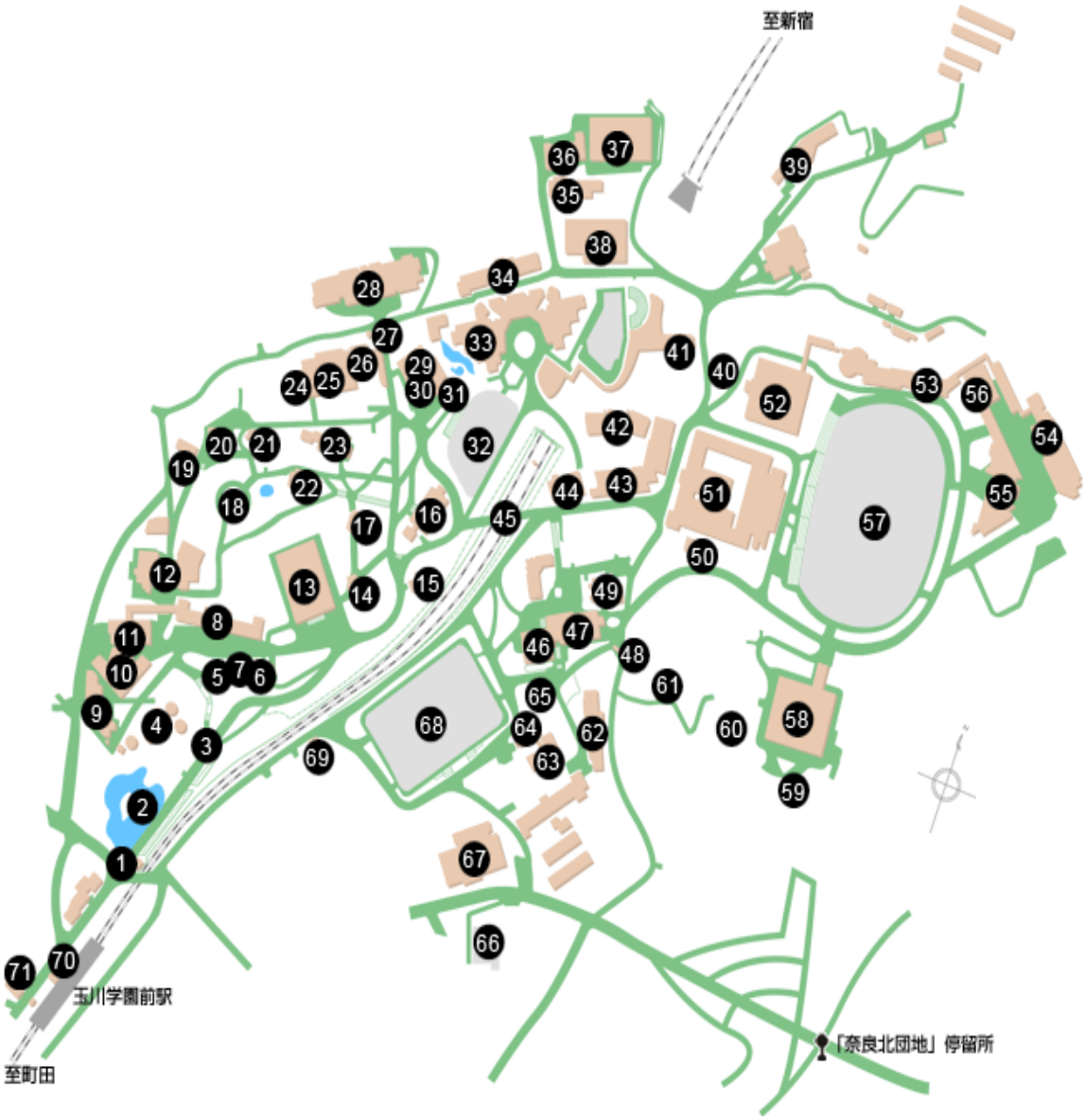
◆　小田原より〔快速急行〕に乗車し、「町田」にて〔各停〕〔区間準急〕〔準急〕に乗り換え（約 60 分）

◆　横浜より JR 横浜線「町田」にて小田急線〔各停〕〔区間準急〕〔準急〕に乗り換え（約 45 分）

◆　八王子より JR 横浜線「町田」にて小田急線〔各停〕〔区間準急〕〔準急〕に乗り換え（約 40 分）



3.　会場学内図



※会場の「5号館」は、地図上部やや左 **28** の建物です。

玉川学園前駅北口⇒ **1**（正門）⇒ **15**（健康院）⇒ **28**（大学5号館）の順にお進みください。

正門から5号館まで徒歩で7、8分程度かかります。もしくは、玉川学園前駅北口にタクシー乗り場があります（「玉川大学5号館」まで5分程度）。

シンポジウム

Education Family：
ニュージーランドのプレイセンターにみる
親と地域がつくる子どもの教育

＜日　時＞　12 月 8 日（土）13 時 00 分～16 時 00 分

＜司　会＞　福本みちよ（玉川大学）

＜シンポジスト＞

淑徳短期大学こども学科　　佐藤　純子

プレイセンター・ピカソ　　足立　隆子

◆シンポジウム要旨：

プレイセンターとは、ニュージーランドで 1940 年代に始まった親による幼児教育施設である。プレイセンターは、子どもの自発的な遊びを大切にし、親が協働運営を行いながら子どもたちに質の高い遊び環境を提供している。この協働運営を円滑に進めるために、親は、プレイセンターの学習コースを受講し子ども理解を深め、地域成員との協働のなかで子どもの教育を行っている。以上のようにプレイセンターは、幼児教育施設でありながら成人教育施設でもあるという、世界的にもユニークな活動である。プレイセンターの基本理念は、Families growing together「家族が一緒に成長する」であり、親と子が一緒に、また地域の家族が一緒に成長していく場所であるといえる。

日本の子育て支援や幼児教育の現場では、親が子育てサービスの受益者として扱われることが多く、親自らが地域の中で子どもの教育を担うという発想がない。そこで本報告では、親の主体的な子育てを支える、つまり「親は子どもが出会う人生最初の教育者」であるという意識を地域全体に浸透させるとともに、当該親子と地域の人々のエンパワーメントを支えるための拠点作りとしてニュージーランドのプレイセンター活動が参考になることを①ニュージーランドのプレイセンター概要の紹介、②日本のプレイセンター活動の実践報告を踏まえながら示していくことにしたい。

懇親会

◆日　時：　１２月８日（土）１７時３０分～１９時３０分

◆会　場：　トラットリア ラ･イタリアーナ

（東京都町田市玉川学園 7-8-7　　℡　042-722-8812）

◆会　費：　５，０００円（学生会員　４，０００円）

年に１回の大会懇親会。会員のみなさんで、楽しい時間を過ごしたいと思います。どうぞふるってご参加ください。

なお、懇親会につきましては準備の都合上、お手数ですが事前の参加申し込みをお願いいたします。

自由研究発表

◆日時:12 月 9 日（日） 9:30～11:00

【1】9：30～10：00

サモアにおける初等教育のレリバンスに関する研究

発　表　者：奥田　久春　（神戸大学大学院国際協力研究科）

◆発表要旨

サモアは伝統的な大家族を基盤とした村社会構造を維持しつつ，近代化を進めてきた。教育においては，1962 年の独立以前は国連統治領としてニュージーランドの施政下にあり，ニュージーランドの教育制度や教育内容を導入していたが，独立後はサモア独自の教育政策を取るようになり，教育内容もサモアのローカル・コンテクストに沿ったものに改められた。しかしその一方で，世界銀行やアジア開発銀行，オーストラリア開発援助庁，ニュージーランド開発援助庁といった援助機関による支援を受けた教育政策の立案やナショナル・カリキュラムの開発が進められてきている。即ち，サモアのローカル・コンテクストに沿った教育内容を目指しつつ国際的な教育水準という点で援助を受け入れており，そうしたバランスを図ろうとしているといえる。

本研究ではこうしたサモアの教育政策の特徴と課題について，従属理論とグローバリゼーションの理論に依拠しつつ，初等教育のカリキュラムのレリバンスという観点から分析を試みるものである。

レリバンスの分析枠組みとしてはカリキュラムの政策面と実際に児童・生徒の学びの経験，という 2 側面から捉えていく。

【2】10：00～10：30

オーストラリアの大学が目指してきた日本語教育とこれから

発　表　者：大橋　純　（メルボルン大学）
大橋　裕子（RMIT 大学）

◆発表要旨

海外の日本語学習者の数は３６５万人、オーストラリアにおける日本語の学習者数は人口比では、百人に一人であり、最も日本語の人気度が高い国の一つだと言える（国際交流基金２００９）。本稿では、　オーストラリアの主要な１０大学のホームページから、日本語がどのように位置づけ

られ、どのような目的で教えられているかを調べ、これから日本語教育が目指すべき方向性の一つを提示する。大学のホームページの調査からコミュニケーション能力や文化理解を目標に掲げている大学が多いものの、それらが、経済的な利益と結びつけられていることがわかった。逆に、異文化間コミュニケーションを通じての人間としての成長や、異文化に対するステレオタイプを見直すなど、言語教育でしか達成できないことについてあまり触れられていないことも明らかになった。Rizvi（2006） Marginson（2011）らが主張するコスモポリタンへの学びや、自己の形成を中心にこれからのオーストラリアにおける日本語教育のありかたについて考察する。

【3】10：30〜11：00

クイーンズランド州のインクルーシブ教育に関する一考察

発　表　者：栗山　直子　（追手門学院大学）

◆発表要旨

1978 年イギリス教育科学省(Department of Education and Science)のウォーノック報告により、特別なニーズ教育(Special Needs Education)が提唱され、オーストラリアでは従来の特殊教育(Special Education)から脱却してきた。我が国よりも先んじた取り組みがなされている。2010 年にクイーンズランド州、兵庫県の二都市で行った特別支援教育に携わる教員に対する意識調査をもとに報告する。

ただし、ウイーンズランド州と我が国では制度が異なるため、単純に比較することはできなかった。そのため、特別支援教員の意識の違いに限定して、業務領域の違い、それに伴う多忙感、困難感を中心に考察を行うこととする。調査結果に加え、視察してきたクイーンズランドの特別支援学校でのソーシャルサポートネットワークや関連機関との連絡調整などの地域との連携サポートシステムを紹介し、クイーンズランド州におけるインクルーシブ教育の現状を考察したい。

ＥＣＲプロジェクト　ラウンドテーブル

オセアニアの教育研究を通して見る日本の現状と論点」

＜日　時＞　12 月 9 日（日）11 時 10 分～12 時 30 分

＜企画者＞　高橋望（群馬大学）・木村裕（滋賀県立大学）・石毛久美子（松本短期大学）

＜シンポジスト＞

石毛久美子（松本短期大学）

奥田久春（広島大学）

木村裕（滋賀県立大学）

高橋望（群馬大学）

◆企画趣旨：

ECR プロジェクトではこれまで、研究キャリアの比較的浅い会員が中心となって、互いの研究内容および研究成果の交流を行ってきた。今回のラウンドテーブルではまず、研究会での発表者数名が中心となり、これまでに重ねてきた研究会での発表および議論を基にした報告を行う。報告の際には、自身の研究結果をふまえると日本の教育研究や実践に対してどのような論点を提起し得るのかを試論的に提案する。それを基にして、参加者の方々と議論を行いたい。

『オーストラリア・ニュージーランドの教育』図書企画プロジェクト

研究発表

＜日　時＞　12 月 9 日（日）13 時 15 分～15 時 30 分

＜企画者＞　青木麻衣子（北海道大学）

＜発表者＞

【オーストラリア】

青木麻衣子（北海道大学，オーストラリアの社会と学校教育）
竹川慎也（愛知教育大学，学校教育カリキュラム）
木村裕（滋賀県立大学，学校教育カリキュラム）
伊井義人（藤女子大学，多文化教育・先住民教育）
杉本和弘（東北大学，高等教育）
竹腰千絵（京都大学大学院，高等教育）
我妻鉄也（桜美林大学，高等教育）
馬渕仁（大阪女学院大学，現場報告）

【ニュージーランド】

福本みちよ（玉川大学，ニュージーランドの社会と学校教育）
高橋望（群馬大学，学校教育カリキュラム）
松本晃徳（オークランド大学大学院生、元オタゴ大学 Senior Teaching Fellow，多文化教育・先住民教育）
中村浩子（大阪国際大学，多文化教育・先住民教育）
佐藤博志（筑波大学，比較・総括）

◆企画趣旨：

本プロジェクトは、『オーストラリア・ニュージーランドの教育』（石附実・笹森健編著，東信堂，2001 年）の内容の刷新を主目的とする。昨年度より定期的に会合を開き、各章の構成・内容の検討を重ねてきた。今回の研究発表は、出版前に、それらを順に報告し、広く会員のみなさまから質問・意見をいただく機会としたい。また同時に、オーストラリア、ニュージーランドの教育政策および研究動向の共有を図り、参加者同士の議論を通して理解を深める場になればとも考える。